



かしわ

【学校HP】www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamiohta/

「かしわ」は代々繁栄するようにと校章に込められた思いです

災害に備えてできることを

校長 中村 浩子

7月には熊本地震が、8月には通常とは違う動きをする台風15号が接近したり、千葉県で豪雨となったりしましたが、子どもたちはどのような夏休みを過ごしたのでしょうか。熊本県での地震や千葉県での豪雨で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。お子さんのことで心配なことがありましたら、学校までお知らせください。

5月29日より新たな防災気象情報が運用されました。警戒レベルの数字がついて発表され、横浜市も北部と南部に細分化されました。まだ慣れない状態の中で6月3日の台風接近となり、学校やキッズクラブの対応も右往左往してしまいました。8月に横浜市学校防災計画の改定されたことを受け、今まで南太田小学校で使用していました「災害発生時における対応について（A3サイズクリーム色）」を見直し、新しく「自然災害に対する登下校マニュアル（A4サイズうすいオレンジ色）」を作成しました。登校初日に配付し、「すぐーる」でも配信していますが、ご覧いただけましたでしょうか。このマニュアルに沿って、今後は対応していきたいと思いますので、今一度ご確認をお願いします。本校の学区は、大岡川の川沿いもあれば、京急沿線付近に土砂災害警戒区域もあります。各ご家庭により状況は変わってきますので、災害の恐れがある際は、各ご家庭での判断をしていただきたいと思います。

さて、9月1日は「防災の日」です。関東大震災が発生してから103年が経ちました。私たちが実際に災害現場をテレビ等で目にした「阪神・淡路大震災」や横浜でも地震の怖さを実感した「東日本大震災」に比べると100年以上前の関東大震災には、どうしても目を向ける機会が少ないかもしれません。少し調べてみると、関東大震災の際、横浜市では、震度6の地震で35000棟以上の家が全壊や半壊、焼失してしまい、約26000人の方が亡くなっています。このような震災が起これないように祈るばかりですが、もしもに備えておく必要は、学校も家庭もあるかと思しますので、ぜひお子さんを交えて話し合ってみてください。

また、東京都の小学校火災を受けて、夏休み中に南消防署の方とともに、今まで予想していなかった場所からの火災の際の避難について職員で研修する時間を取りました。校内を歩きながら、防火扉が閉まりかけているときの避難はどうすべきか、施設してある場所での火災の発見や対応はどうすべきか等、今までなかった視点がたくさん見つかり、南消防署の方からもよい研修だったと講評をいただきました。実際に火災報知器が鳴り響いたら、職員室の受信機がどうなり、その後どうすべきか、改めて学ぶことができました。

地震も火事も豪雨も、そうなったときには想定外のことが起こると思われます。少しでも慌てずに行動できるよう、子どもたちの命を守るために何ができるのか、これからも様々な災害に備えていきたいと思います。